



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：雨森 正記
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail jpca@a-youme.jp
HP primary-care.or.jp/primarycare-kinki/

ニュースレター No.35 (2022.3)

報告：P-FES 2022

～第14回近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会～開催！

合田 建（神戸大学地域医療支援学部門／兵庫県立丹波医療センター／丹波市）

阪本 宗大（奈良県立医科大学／奈良市）



2022年2月23日に行われたP-FESが大盛況で終わりました。去年度に引き続き、完全オンラインで開催し、近畿ブロックだけでなく、全国から数多くの多職種や医学生・初期研修医を含め170名を超える方にご参加いただきました。

この会は近畿ブロック支部の3大企画（ポートフォリオ道場・地方会ブラッシュアップ企画）に続いて、1年の締めくくりとなる、ショーケースポートフォリオの場です。

- ① 専攻医のポートフォリオ作成の目標となる場を作る
- ② 優れたポートフォリオを供覧することで全体のレベルアップを図る
- ③ 学生、研修医、他職種に総合診療の面白さや魅力を伝える

を目標に若手指導医、さらに今年度は発表の負担にならない範囲で専攻医にも関わってもらい、総勢24名で準備を進めてまいりました。

40名の専攻医が詳細事例を提出し、40名の指導医に評価していただきました。

ブレ企画は小林正宣先生を中心に、藤沼康樹先生・奥知久先生をゲストに招いて、指導医交流会を行いました。

本番はまさかの100人制限がかかっており、開始が遅れましたが、雨森先生と司会の徳田先生のトーク、また運営委員のチームワークで何とか対処できました。

他職種（薬剤師・看護師）の地域で行う多職種連携の重要性が身に染みる発表に続き、1年目かと思わせる新人枠2名の発表。特別企画として松井先生、宮地先生による生指導は指導医の頭の中を垣間みせる、圧巻のものでした。

プロジェクトベースの発表は二人とも「教育」領域でした。今まで、事例ベースが取り上げられることが多かった中で、視聴者のモチベーションにつながったと思います。漆畑先生の「地域志向型ケア」の企画は、事前アンケートや具体事例をもとに、すぐに実行できるようなTipsを入れ、説明してくれました。事例ベースの発表は奈良県立医科大学の3名が、深く省察し、素晴らしい発表をしてくださいました。

年々レベルアップしており、今後もより一層、近畿から日本の家庭医療・総合診療が盛り上がり我想います。

後半は運営委員としても協力していただき、当日最優秀賞をとった阪本先生にバトンを渡したいと思います。

合田先生、ご紹介ありがとうございます。まずこの場をお借りして、素敵な賞をいただいたことを感謝申し上げます。歴史ある近畿ブロックのポートフォリオ発表会受賞に恥じないよう、これからも研鑽を重ねて参りたいと思います。また今回、私も専攻医として運営に関わりましたが、運営の大部分は若手指導医の先生方が行ってくださっており、専攻医の負担を最小限にさせていただいたことがありがたかったです。そのお陰もあり、私はポートフォリオ作成に注力することができました。専攻医の運営委員としては、専攻医のみを対象とした懇親会を企画しました。実際の参加者は8名と少数ではありましたが、日頃の悩みや不安について共有することができました。来年度以降も開催方法を検討しながら専攻医同士が繋がれる場を継続できればと考えております。

特集1：近畿の話題（今回は、大阪・京都からです）

新型コロナ診療チーム KISA2 隊大阪の取り組み ～小さな診療所が集まれば大きな力になる！～

小林 正宜（葛西医院 院長/KISA2 隊大阪 隊長/大阪市）

私は大阪市生野区で葛西医院の院長、そして KISA2 隊大阪の隊長という二足のわらじを履いています。2021年2月に京都の「よしき往診クリニック (YOC)」の守上佳樹院長、宮本雄気先生が新型コロナ患者さんの自宅療養を支えるべく、KISA2 隊 (KYOTO Intensive area care unit for SARS cov2 対策部隊) を立ち上げられました。地域の診療所である YOC と行政、保健所、入院コントロールチームといった大きな組織とタッグを組んで、自宅療養者を往診や訪問看護を含めた多職種の介入で支えるという非常に画期的な取り組みで、とても感銘を受けました。

一方その頃私は感染による院内一時閉院リスクのことばかりを考えて、新型コロナ患者さんの往診にも踏み出せず、新型コロナウイルス感染症に対し、医師として踏み出せていない現状に悶々としていました。このような状態を「生焼けのたこ焼き」といいます。その頃、奥知久先生（奥内科・循環器科 院長）が大阪で同様に悶々としている若手医師を集めて「生焼けのたこ焼きの会」としてオンラインで自分たちの想いの共有や、診療所医師としてコロナに対して何ができるのかといったことを話し合っていました。そのうちに「生焼け」のたこ焼きが、徐々に「こんがり」焼けてきていました。

2021年8月第5波が猛威を振るう中で京都の守上先生と一緒に立ち上がろうと鼓舞して下さったのが、たこ焼きが「こんがり」焼き上がったときと同じタイミングで、その勢いそのまま5つの診療所の先生方の賛同を得て、KISA2 隊大阪を6診療所で立ち上げることになりました。8月のお盆のころに大阪府医師会理事にプロジェクトの話を持ちかけると、大阪府医師会と大阪府がバックアップしてくれるという力強い言葉を頂き、9月2日には茂松大阪府医師会長と吉村大阪府知事が共同記者会見で往診チームを作ったと発表されました。「小さい診療所だからたいしたことはできない」という固定概念を打ち破った瞬間でした。そして KISA2 隊の K が KYOTO から KANSAI に変わりました。

その後、KISA2 隊大阪で私が日本で初めての在宅での抗体カクテル療法を行ったり、多くの患者さんのコロナ往診に行くのはもちろん、感染対策レクチャーを行う KISA2 道場の開催、障がい者団体や当事者とのオンライン KISA2 カフェの開催などコロナに関する多岐にわたる取り組みを行ってきました。そして、第5波と第6波の間も休むことなく、がむしゃらに対策や準備に奔走していました。

残念ながら第6波は猛烈な勢いで大阪に襲いかかってきましたが、KISA2 隊大阪も負けずに進化を遂げ、現在は9診療所+応援医師総勢20名程度の医師と30名程度の協力者とともに、連日10~15件の新規コロナ患者さんの往診・診療依頼を受けながら、平日夜・土日祝日に高齢者施設クラスター支援に行き、最近ではコロナ患者さんの食支援をサポートする活動も行っています。現在までに数百人のコロナ患者さんの自宅療養に関わり、約25の高齢者施設クラスターを支援し、感染対策サポートや心理的なサポートとともに、重症化予防のためのソトロビマブ点滴を約250名の方々に施行してきました。生焼けだったたこ焼き達が本当にこんがり焼けて、時には焦げそうになる勢いですが、志を同じくした多くの仲間たちと

もに前向きな気持ちで取り組んでいます。KISA2 隊は今では活動の場を京都、大阪のみならず、滋賀、奈良、兵庫、埼玉、宮城、秋田、大分、愛知と全国に広がっています。

小さな診療所でも手と手を合わせて、たくさんの多職種の仲間とともに取り組めば、本当に大きな力になると実感しました。私達の活動に賛同して下さる方は是非ホームページ <https://kisa2tai.net/> のメンバー募集フォームからメッセージをお願いします。一緒に KISA2 隊をやって下さる方、KISA2 隊の後方支援をやって下さる方、KISA2 隊に寄付という形で応援して下さいの方々、どのようなことでも KISA2 隊に興味を持って下さるの方々からのご連絡を心からお待ちしております！

KISA2 隊は苦しんでいる患者さん一人ひとりのため、そして新型コロナで分断された社会を取り戻すためにこれからも全力で突き進みます！



京都は鴨川のほとりで山が動く

松原 慎（京都府立医科大学附属病院／京都市）

当院は 150 年の歴史を誇る老舗の大学病院であり総合診療科自体は 20 年以上前から存在します。もともとは専門内科の講師以上が集まって、大学に紹介状なしで訪れた患者さんの初診外来を担当していました。大学病院を受診される患者さんは病態、精神面、社会背景ともに一筋縄でいく方は少ないため、ジェネラリストとしての誇りをもってもらえる医師の育成が急務でした。

また本院の総合診療科は（多くの大学病院と同様に）入院病床を持っていませんでした。すると以下のような現象が生じます。数日前からの発熱を主訴で来られた患者さんに高度炎症が判明し、CT でも異常なく「フォーカス不明の発熱」だが、当該科が決まらないという状況が時折発生します。全身状態からも入院が必要なことは医療者ならだれでも分かる。でも入院できない…その場合には、冗談ではなく京都市の他院の有名な総合内科、総合診療科に不明熱？として夕方から紹介していました。

転機となったのは 2020 年で、研修医の一般外来が必修化されたことを受けて、ほぼ外来担当者が総合医療・医学教育学教室のスタッフのみとなり、彼らの指導下で内科を週 1 回ローテーションする初期研修医が診察するという形式に統一しまし

た。毎日必ず 30 分から 60 分近くの時間をかけてその日の外来診療のフィードバックを行い診療の質を担保しております。

そして同時期から悲願であった入院病床を 2 床頂けることになり、(7 年を要しました。) 前記致しました精査目的での「とりあえず入院」が必要な患者さんの対応が可能となりました。3-5 日あれば IE、頸椎膿瘍、カロナールアレルギー、リンパ腫と診断がつきます。

すべての専門科が揃う大学病院での生き残りの難しさを常に痛感しながら、コロナ診療をはじめ、すべての科が揃っているからこそ生じる隙間をまるでバレーボールのリベロのように必死で埋めています。

関連医療機関も徐々にですが増えています。与謝野町の京都府立医科大学附属北部医療センター、伊根町の国民健康保険伊根診療所、本庄診療所、久御山町の京都岡本記念病院、当院を含めてこれらの医療機関を巡回しながらレジデントはトレーニングしていきます。時には急性期病院の総合内科でゴレイロとして、地域の診療所でチームマネージャーとして、ときにはリベロとして。。

そのうえでジェネラリストとしてのさらなる専門を選び、誇りをもって京都府の中の自分の当該地域を守ってくれる。そんな医師を 1 人でも多く育てることが私達の使命だと思っています。



特集 2 : 第 35 回近畿地方会のお知らせ

吉本 清巳 (日本プライマリ・ケア連合学会奈良県支部 支部長)

2022 年 11 月に行われる、奈良県支部主催の、日本プライマリ・ケア連合学会第 35 回近畿地方会についてお知らせいたします。現在、実行委員会、企画会議を重ねて準備を進めておりますが、34 回大会の閉会式の時に案内させていただいた日程「2022 年 11 月 27 日 (日)」から、会場の確保の都合で「2022 年 11 月 20 日 (日)」に変更になります。

また会場も「奈良県立医科大学」から、「奈良県社会福祉総合センター」に変更になります。どうぞよろしくお願いいたします。

開催概要

2022 年 11 月 20 日 (日) *以前の案内から変更になっております。

奈良県社会福祉総合センター

<http://www.narafukushi.com/>

〒634-0061 奈良県橿原市大久保町 320 番 11

TEL.0744-29-0111 FAX.0744-23-3339

テーマ 「新時代へのパラダイムシフト～わくわくする地域へ～」

現地とオンラインのハイブリッド開催を予定しています。また、実行委員会で会議を重ね、テーマを上記のように決定させていただきました。2022年11月の新型コロナの感染状況がどうなっているかまだ分かりませんが、2年のコロナ禍を経て、生活様式や、医療・介護・福祉といったプライマリ・ケアの現場の状況も様々に変化してきました。地域での取り組み方も大きく変わってきたことと存じます。また、昨年は新専門医制度の初の総合診療専門医も誕生し、まさに総合診療は新しい時代を迎えています。現在(2022年2月)は、まだ第6波の真っただ中の苦しい状況ですが、新しい時代への前向きな気持ちを込めて、上記のテーマと決定させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

また、例年近畿地方会は、大変予算の厳しい中で開催を行っています。今年は、演題登録や参加登録といったITシステム以外の部分(会場運営、オンライン配信等)を、できるだけ自前で行いたいと考えています。手作り感のある学会になる予定をしています。どうか暖かい目で見てください、たくさんの方に参加いただいて盛り上げていただけたら幸いです。運営の御手伝いも歓迎いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

協力依頼：近畿での総合診療専攻医を増やしたい！ ～医学生・初期研修医に継続的に情報提供を行う体制づくりのご協力の依頼～

川島 篤志(市立福知山市民病院/福知山市)

新専門医制度が始まって丸4年が経とうとしています。修了された方、また研修を支えた方、混乱の時期を乗り越え、本当にお疲れさまでした。

さて、総合診療・新家庭医療での研修を受ける専攻医の数は経年的に増えてきたとはいえ、十分でないことは共通認識だと思います。JPCAとしても新たな広報HP「もっとプライマリ・ケア：<https://www.primarycare-japan.com/>」での魅力的な発信をはじめましたし、各医療機関でもリクルートに取り組みされていると思います。それに加えて、JPCA近畿として、総合診療・家庭医療に興味をもっている医学生・初期研修医とのネットワークづくりの提案です。

最終的な目標としては、「近畿での総合診療専攻医を増やしたい」ということを考えており、そのためには「医学生・初期研修医に継続的に情報提供を行う体制づくり」にあると考えました。センスのあるネーミングも募集中！

医学生のあいだでは、総合診療・家庭医療に興味をもっている人たちの勉強会が複数あります。地方会・ポートフォリオ発表会の参加費無料化の取組みや、夏期セミナーの開催など窓口も準備されていますが、十分な情報が届いていない可能性や、コロナ禍での実習・見学制限で総合診療・家庭医療に従事している医療者との接点も少ないのかもしれない。

現在考えているのは、近畿の各大学所属の医学生高学年の連絡先を複数人(複数年度)、把握して、総合診療・家庭医療の魅力発信や情報共有を進めていくことです。P-FESの実行委員会やJPCA学生・研修医部会にも協力をお願いする予定です。素人(川島)が作成した仮HP(<https://primary-care-kinki.jimdosite.com/>)も情報集約のために創りましたが、より魅力的なものにするためにブラッシュアップが必要です！助けて下さい！

基本的にはJPCAやJPCA近畿ブロックが提供してきたものを主体としています(豊富にありますよね！)。

今後、定期的な二週聞き取りを通じて、緩い話の場の提供や、各勉強会への協力、近畿ブロックの医療機関に属する医療者から講演アレンジなども考えています。新ネットワークをつくる！より、既存ネットワークを医学生に情報を提供し、取捨選択は医学生(代表者)に任せるといった形を考えています(世代間で利用する手段の相違を想定)。

大学間で情報のバラつきがでない配慮が必要と認識しています。医学生への接点が多いのは大学にあると思いますので、各大学での総合診療・家庭医療に関する窓口もHP掲載を意識していますが、医学生間や先輩後輩の口コミなどの共通基盤になれるとイイかなと思います。

発想から実働まで時間がかかっていますが、地道に進めていきますので、ぜひご協力をお願い致します！

HPより：いくつご存知ですか？ (答えはHPにあり)

【既存の情報発信】

- ◆ JPCA 近畿ブロックHP・FBページ
- ◆ 初期研修医のための総合診療ポータルサイト
- ◆ じゃねたま(オンライン振り返り会)
- ◆ JPCA 近畿ブロック PodCasts
- ◆ 総合診療医 キャリアの軌跡
- ◆ JPCA 学生・研修医部会FBページ
- ◆ もっと、プライマリ・ケア

【学生 勉強会】

- ◆ PCs
- ◆ PISCO
- ◆ チーム関西
- ◆ SCRAP
- ◆ CPC部

ご意見+運営やHP更新など協力してくれる方 募集中です！

その他

●近畿ブロックのレジェンドたちのライフヒストリー&感動秘話

- # 1 石丸裕康 先生
- # 2 木戸友幸 先生
- # 3 中山(畔田)明子 先生
- # 4 雨森正記 先生
- # 5 鈴木富雄 先生
- # 6 松井善典 先生
- # 7 竹中裕昭 先生
- # 8 三澤美和 先生 (近日配信予定!)



をゲストに迎え、順調にポッドキャスト収録が進んでいます。
ぜひ一度お聞きください。

●近畿ブロックの研修ブラッシュアッププロジェクト ～up to the 3rd power～

up to the 3rd power という、専攻医の研修を近畿全体でシステムティックにサポートし、一人ぼっちの専攻医を作らないプロジェクトを始めました。現在、月一回のミーティングを行っています。

2022年度は、4、5月頃に登録を行い、年間の専攻医のための教育イベントについて、通年参加できるシステムを考えています。(右図参照)

次回のミーティング日程は、2022年3月29日(火) 21時～です。

プロジェクトに興味がある、関わりたいという方、ドシドシ連絡ください。

登録先はこちらです。 <https://forms.gle/kiVioQdp5CA86jTN6>



[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております!**

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました!

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之